社会人基礎力協議会News

一般社団法人
社会人基礎力
協議会

第3号　2020年3月24発行

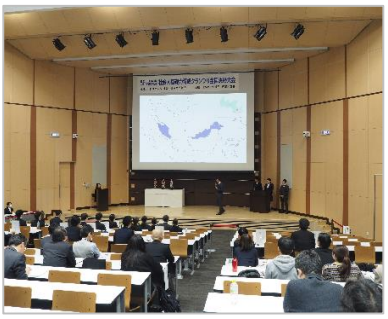
1　2019年度　社会人基礎力育成グランプリ全国決勝大会開催

グランプリ委員会

「人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ」は、大学での社会人基礎力の育成に関して大きく成長をとげた学生らの表彰を通じて、各大学の効果的な取り組み事例を広く多くの方々に周知する趣旨で開催しています。2019年度のグランプリは、協賛企業の皆様、各大学等関係者の皆様のご協力を得て、日本商工会議所および公益社団法人経済同友会のご後援、オブザーバーに経済産業省を迎えて開催しました。全国から総数35チームの応募があり、12月に各地区で行われた各地区予選大会で最優秀賞6チームが選ばれました。そして2月18日にその6チームが集い、決勝大会を開催しました。決勝大会では、学生らが成長へとつながった活動での数々のエピソードがプレゼンテーションされました。また教員による授業等の取り組み内容、その狙いなど説明もあり、社会人基礎力育成に関する大きなヒントが得られました。

開催概要

実施日時：　2020年2月18日(火)　12:00～16:30
実施場所：　拓殖大学　文京キャンパス　E館1階　後藤新平・新渡戸稲造記念講堂
審査員長：　実践女子大学 文学部 国文学科 教授 深澤晶久氏
審査員：　公立諏訪東京理科大学 工学部 情報応用工学科 教授 市川純章氏
株式会社マイナビHRリサーチ部 部長 栗田卓也氏
経済産業省 経済産業政策局 産業人材政策室 総括補佐 宮崎芳人氏
株式会社ウチダ人材開発センタ 代表取締役社長 宮原良幸氏
株式会社日経HR コンテツ事業部長 渡辺茂晃氏（以上、審査員は50音順）



出場チーム・発表テーマ・大会結果

地区	大学名	テーマ名	大会結果
関東	拓殖大学　国際学部国際学科	地域に根ざした協力のあり方を模索する～マレーシア国コタキナバル市での活動を通じて～	準大賞 協賛企業賞
	創価大学　経済学部経済学科	在宅介護者が精神的に健康で介護できる社会の実現を目指して	大賞
中部	中京大学　総合政策学部ビジネスコース	人生 100 年時代のハイウエイ走行に必要なマネジメント力とは	
近畿	大阪工業大学 情報科学部情報知能学科	AI シミュレーションによる危機管理対策を目指した地域コミュニティとの共創	準大賞
中国・四国	岡山商科大学　経済学部経済学科	初めての政策提言	
九州・沖縄	九州共立大学　経済学部経済経営学科	北九州の高齢者を元気にするマニュアル作成への挑戦	

①

②

④

③

⑤

①大賞　創価大学
②準大賞　拓殖大学
③準大賞　大阪工業大学
④協賛企業賞　拓殖大学
⑤大会審査時間中に行われた交流
http://biz100.org/gp/award/2019gp-result-z

2 「元気で幸せに活躍する」ためのリカレント教育普及を目指して

リカレント委員会

浸透してきた「人生100年時代」の間口・奥行きの広さ深さを実感する今日となりました。少子高齢化・長寿社会における幾重にも継続するライフステージの展開の中で個々人が「何を経験し何を学び何を準備するのか」。「リフレクション（振り返り）と気づき」の習慣化が極めて重要になってきています。
従来の健康医療・資産形成・相続や終活の話題から、生涯学習を軸足にして前向きに「元気で幸せに活躍する」生涯現役に向けた「リカレント教育」が問われてきています。特に個人の課題から、個を取り巻く大学・企業・社会・地域との共存共生のプログラムの充実に取組みたいと考えています。その根幹にはアウトプットしていく「社会人基礎力」の育成が重要になります。
2019年度の委員会活動は、「実践の場での社会人基礎力の実情」「大学でのリカレント教育」「霧島での地方創生人材の育成」「シニア世代の生産性革命・人材の流動化・女性活躍と社会人基礎力等今日的課題」をテーマに年6回のフォーラムと勉強会を開催いたしました。2020年度の事業計画には、フォーラム・勉強会開催と共に、普及と啓蒙を目的にした「ハンドブック」刊行を予定しております。（委員長　芝原脩次）

3 「実践・社会人基礎力研究所」研究所員募集

リカレント委員会

リカレント委員会では、社会人基礎力を実践的視点から深め、その有効性を高めることを目的に、2019年度に「実践・社会人基礎力研究所」を開設しました。2020年度も引き続き研究所員を募集中です。人生100年時代の社会人基礎力を「仕事（就労）と学び」を繰り返す、スパイラル的「リカレント教育」を推進し、企業人材育成と個人の成長に寄与したいと考えます。下記要項を参照いただき、「企業・大学」「個人」のご応募をよろしくお願い申し上げます。

募集要項

目的	現役・OBの実務経験者が基礎力を実践的視点から分析・深耕し高める
テーマ	①「実践・社会人基礎力」を深める　②女性による「女性活躍推進」研究
募集人数	研究員：二期生20～30名（予定）／現役・OB&OG　男女年齢不問
登録費用	①法人5万円（枠2名）②一般3万円の寄付協賛金を充当します
選考基準	「職務経歴」確認、目的を理解し、意欲的な継続的活動が出来る人
活動日程	（第二期）2020年4月～2021年3月＜1年間＞
研究活動	定例＆随時研究会開催（原則チーム&個人活動とします）
成果発表	中間報告会（9月）／最終発表会（3月）／「研究報告書」刊行・公開
名刺肩書使用	「リカレント委員会・実践社会人基礎力研究所」研究員 実務経験職歴・研究テーマに応じて「特命研究員」「エグゼクティブ研究員」等使用

お問合せ・お申込はこちら
メール申込
y.shibahara@nifty.com
問合せ先
090-3477-7277（石田）
090-7227-2458（芝原）

4 プロジェクト活動を通して総合的に育む社会人基礎力

研究委員会

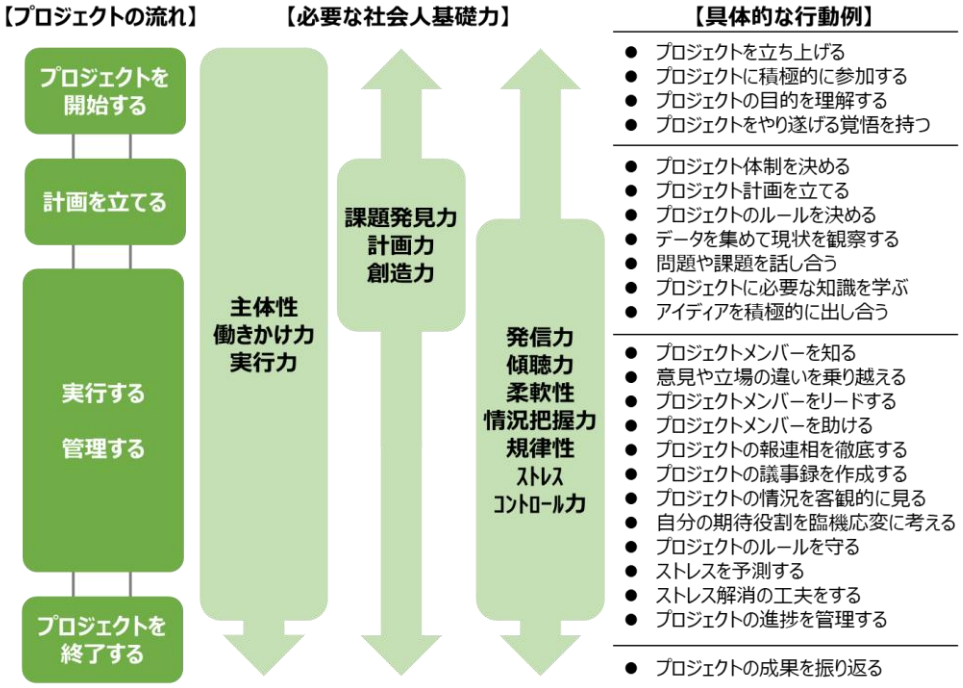
社会人基礎力育成グランプリ出場校が発表した活動内容を見ても、ほとんどがPBL（Project Based Learning）の手法を取り入れた授業やゼミです。社会人基礎力は、座学で知識として学ぶだけではなく、経験を通して実践しながら体得していくものだからでしょう。実際、プロジェクトは、一定の期間を決めて一つのテーマに取り組むので、開始から終了まで一連の流れを体系的に経験できる点が、社会人基礎力の強化に向いています。これについて、研究委員会では、副委員長の山﨑紅（人材開発コンサルタント）が「求められる人材になるための社会人基礎力講座　第2版」（日経BP）のなかで、プロジェクトの流れに沿って、各段階で必要な社会人基礎力と具体的な行動例の整理を試みていますので、その部分について参考までにご紹介いたします。

各段階で必要な社会人基礎力とは

プロジェクト全体を通して、社会人基礎力の能力要素のすべてが総合的に必要ですが、その強弱をあえてつけるなら右図のように考えます。例えば、計画段階では「考える力」を十分発揮して真の課題を発見し、有効な解決策をみつけることが重要です。実行段階に移ったら「チームで働く力」の発揮度合いで成果が変わります。段階によって必要な能力を意識し、努めて発揮することで成長に繋がります。

どういう行動が求められるのか

具体的にどういう行動ができたら、プロジェクトがうまくいくのか、例を挙げたのが右図の「行動例」です。例えば、計画段階では、データを集めて現状を観察する、問題や課題をメンバーで話し合う、解決策を考えるために必要な知識を学んだり、アイディアを積極的に出し合うといった行動が必要です。指導する側は、各段階で必要な行動を促しながら総合的に社会人基礎力強化を目指すとよいでしょう。
（副委員長　山﨑　紅）



出典：「求められる人材になるための社会人基礎力講座　第2版」（日経BP）

特別寄稿

ゼミ活性化と社会人基礎力形成支援

松山大学　経済学部　教授　松本直樹

松山大学は四国に位置する100年に垂んとする歴史と5学部6学科6千人弱の中規模地方私立総合大学です。データによりますと文系学部においては現時点で偏差値50前後と典型的な学力中間層を受け入れている中堅大学です。

Profile

松山大学経済学部学部長
社会人基礎力育成事業
iProject!担当。2016年より4年連続で社会人基礎力育成グランプリ中国四国地区大会に出場し、最優秀賞を2度、優秀賞を2度受賞。2018年より2年連続で全国決勝大会にて準大賞受賞。

一昔前のゼミの在り方

授業にはあまり出席しなくとも、先輩や友人のネットワークから得た情報で適当にレポート課題や試験をこなし、単位を取得し首尾よく卒業する。そうした学生はいつの時代にもいたし、それはそれで一つの才能かもしれません。他方でそういった要領がいいやり方はできないものの、かといって授業で積極的にもなれず、サボらないまでもいつも受け身の域を出ることのできないタイプ。そんな平均的な学生の意識改革のきっかけ作りが一昔前まではゼミの役割だったような気がします。そこにおいて試行錯誤で自分の殻を破って力をつけ成長する。私の限られた経験でも、本ゼミ以外にサブゼミやいろいろな行事が目白押しでした。先輩後輩やOB、OGとのつながりも深かったと思います。

社会人基礎力育成事業に取り組んだ背景

今ではゼミ自体は形骸化しています。昔のノリで運営しようとすると途端に不人気ゼミになってしまうか、さもなければブラックゼミと陰口を叩かれてしまうのではないでしょうか。楽なことが重視され、テストのない単なる少人数講義の場となる傾向を危惧しています。私のゼミ生の大半が私の講義を履修せず、避けるようになったとき、何とかしなければと覚悟を決めた次第です。あまり昔のことは言いたくないのですが、ゼミの先生の講義は履修が当たり前で、ゼミ生は教室の前の方に座り、講義終了後は黒板を消すのが当然だったような気がします。昭和は遠くになりにけりです。大学とのかかわりはほどほどにしてアルバイトに精を出す。正課外活動の位置付けはどうでしょう。現在の松山大学ではサークルは軽いし、部活動では負担が重すぎる。そこでいくつかある学生支援団体が人気となっています。そしてそれらに出遅れた学生の受け皿が社会人基礎力育成事業です。ゼミ活性化のためこの事業に携わり、ゼミ活動と一体運営することにしました。

社会人基礎力育成に関する松山大学での様々なチャレンジ

本学では2008年から学内でプロジェクトが始まり、その年度の社会人基礎力育成グランプリにも出場、翌年には経済産業省「体系的な社会人基礎力育成・評価システム開発・実証事業」に採択され、現在に至っております。2015年より私が担当しておりますのはiProject!というもので、ゼミ生を中心に地元の市役所、高校、民間事業者と連携し、地域の特産物を活用した地域活性化に取り組んでいます。これまで複数の商品やメニューを開発し市販化にも成功しています。
このプロジェクトの特異な点は大学生が社会人と高校生の橋渡し役となり、双方から影響を受け、また同時に影響を与える立場となることです。実務に長けた社会人の方をキャリア上のロールモデルにしながら、逆に高校生に対しては自らが学びの場におけるロールモデルとなる。全国的にあまり例を見ない貴重なケースではないかと自負しています。
私自身、私立大学の使命は人材育成の面で分厚い中間層を支援することだと認識しており、この点で社会人基礎力は極めて相性の良い概念であり、今後も教育の現場において積極的に活用していきたいと考えています。

特別寄稿

社会人基礎力がますます重要になる時代に

株式会社学情　執行役員　瀬戸本浩司

Profile

1993年、学情入社。大阪で数多くの企業の採用活動支援を経験後、名古屋・東京・横浜の拠点長等を歴任。2009年に公共事業部門を立ち上げ、現在は公共、人材紹介、グローバル各事業と朝日新聞との提携事務局を担当。年間300本以上観る映画オタク。

学情が社会人基礎力の普及活動を始めたきっかけ

学情は、新卒学生及び20代社会人の就職/転職を「あさがくナビ」「Ｒｅ就活」等のサービスで支援しています。弊社が社会人基礎力に関する取組みを始めたきっかけは2009年度に受託した経済産業省の調査事業でした。本調査では、大学生が社会で活躍するために必要だと思う能力要素と、企業が学生に不足していると考える能力要素の差異を検証しました。学生側の回答で多かったのは「資格」「語学力」「業界知識」等でしたが、企業側は「主体性」「コミュニケーション力」「粘り強さ」といった回答が多数を占めました。明示しやすいスキルが重要と考える学生と、まさに社会人基礎力が提唱する、社会を生き抜く力を求める企業とのギャップが浮き彫りになる結果でした。この調査事業をきっかけに、社会人基礎力の更なる普及の必要性を痛感し、弊社の取組みが始まりました。

成長を確認するツールとしての社会人基礎力

リーマンショック後、新卒者の就職環境が激変する状況下で中小企業庁が実施する「新卒者就職応援プロジェクト」事業を受託した弊社は、全国の新卒・既卒者を対象に長期の職場実習のマッチングに取り組みました。この事業は最長6カ月に渡る実習を行うプログラムで、参加する実習生の日々の成長を確認する仕組みが必要でした。そこで、「社会人基礎力検証シート」を開発し、社会人基礎力12の能力要素のうち、実習を通じて高まった要素は何か、今後高める必要のある要素は何かといったディスカッションを、実習生と企業の実習指導者が定期的に行う仕組みを導入しました。この仕組みにより、実習生が自身の課題を把握し、成長の実感を得られたようです。本事業は約5年間実施され、数多くの実習生が受入れ企業への就職を実現しました。

日増しに高まる社会人基礎力の重要性

弊社が定期発行する機関誌「ＣＯＭＰＡＳＳ」では、毎年開催される「社会人基礎力育成グランプリ」の全国大会の模様を取材し、受賞校のインタビュー記事を掲載しています。また、全国の大学キャリアセンターで開催される就職ガイダンスの講師を担当させていただく際に社会人基礎力の重要性について学生の皆さんへお話ししたり、弊社が運営する各種就職/転職情報サイトで社会人基礎力をテーマにしたコラムの発信等を行っています。
企業の通年採用やジョブ型雇用の導入が急増していく中、特に社会に出ていく学生の皆さんにとって、社会人基礎力の重要性が日増しに高まっていると実感しています。
今後も、弊社では社会人基礎力の普及啓発の取組みを継続していきます。

5　機関誌「社会人基礎力研究」創刊号　3月末発行へ

研究委員会

最新の「社会人基礎力」の動向を発信することを目的に、学術的研究、ケーススタディ、企業からの情報等を掲載した機関誌『社会人基礎力研究』創刊号を発行する運びとなりました。会員の皆様、協賛企業の皆様にお届けいたします。「社会人基礎力」育成にご活用ください。

6　2020年度より新体制でスタートいたします

本協議会の使命は「人生100年時代の社会人基礎力」について研究、普及することにより、社会に貢献することにあります。当協議会を設立してから二年目を迎えようとしておりますが、多くの方々に、ご支援ご協力を賜りまして、ここに謹んで厚く御礼申し上げます。
当協議会の役員は2年を任期としておりますので、2020年度より新体制がスタートいたします。正式には2020年5月の理事会、社員総会にて決議されますが、新役員の着任および旧役員の退任を予定しておりますことを、ここにお知らせいたします。
今後とも倍旧のご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
（新体制のご説明、新役員のご紹介は、正式決定後にご案内申し上げます。次号のニュースレターでも取り上げる予定です）

編集後記

社会人基礎力協議会News第3号はいかがでしたか？
社会人基礎力育成グランプリでは、今年も各校の熱のこもった発表が行われました。与えられた課題をこなすのではなく、自ら考え行動することで困難な状況を乗り越える経験をして、たくましくなった学生の皆さんの姿が印象的でした。社会人基礎力を強化することはもちろん重要ですが、様々な学び、経験を通して自然と社会人基礎力も強化されている、そういう育成ができたらと改めて感じました。皆様の大学内、企業内でのお取り組みはいかがですか？　好事例がありましたらぜひ記事に取り上げたく、会員の皆様からの事例情報を随時募集しております。
記事へのご意見、取り上げて欲しいテーマのご要望なども事務局までお寄せください。
よろしくお願い申し上げます。
（担当：研究委員会副委員長　人材開発コンサルタント　山﨑　紅）

一般社団法人　社会人基礎力協議会　　事務局（メディア総研株式会社内）　メール:shakiso100@biz100.org
〒100-0006　東京都千代田区有楽町2-10-1　東京交通会館ビル1010　TEL:03-6206-3030　FAX:03-6435-0801